

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【善前小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	算数におけるさいたま市学習状況調査の結果では、知識・技能において全学年で改善がみられた。特に、「数と計算」領域では、異集団比較及び同集団比較共に、全学年で、昨年度から数値が下がってしまった。このことから、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図っていく必要がある。「ドリルパーク」等、個別に蓄積されたデータを効果的に活かしていきたい。朝学習と異なる基礎・基本の時間を活用して、ドリルパークや計算ドリルで計算の反復練習を全学年で重点的に取り組み、R7年度のさいたま市学習状況調査等で検証していきたい。
思考・判断・表現	国語におけるさいたま市学習状況調査の結果で、「書く」領域において、異集団比較または同集団比較にて、全学年で、昨年度から数値が下がってしまい、課題がみられた。相手や目的に応じて敬体と常体を使い分けたり、どのような図表を用いようか効果的かを考えたりすることに課題が残った。教科横断的な視点も大切になら、各教科で、グラフや表などの資料を活用しながら自分の考えをまとめたり、相手や目的を常に意識しながら実際に自身の意見や考え、思いなどを書いたりする学習を重ねていきたい。さらに、書いたり、一人一台端末で打ち込んだりした文章を自分で推敲し、その後仲間と見合ったりする活動も重視しながら、思考力・判断力・表現力を伸ばしていきたい。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題> 国語の「主語・述語の関係を理解する」ということに大きな課題がある。</p> <p><指導上の課題> 「誰が何をしている」「誰がどんだ」ということを意識して文を捉えたり、読み取ったりしていく時間の設定が不十分である。</p>	⇒ 朝学習となる週一度の「基礎・基本」の時間で、「ドリルパーク」等を活用し、主語・述語の関係における理解を全学年で重点的かつ継続的に取り組む【月に2回程度の実施】。そして、本年度の市学力・学習状況調査等で、本校平均正答率と市(全国)平均正答率との差を、昨年度よりも縮められるようにする。
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 「話の内容を捉えたり、場面と図・式を関連付けたりする」ということに課題があり、さらには個人差が大きくなる。</p> <p><指導上の課題> グラフや表などの資料を活用したり、実際に書いたりする時間の設定が不十分である。</p>	⇒ 資料をもとに自分の考えをまとめたり、自身の考えを図や式、言葉等で表現したりする活動を充実させていく。さらに、協働的な学びを随時行い、自分の考えをペアやグループ、また全体で表現することができるようにする【R6年度さいたま市学習状況調査「学校の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が85%以上】。

全国学力・学習状況調査
<小6・中3>(4月~5月)

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	A	月に2回、朝の時間「基礎・基本」で、「ドリルパーク」等を活用し、漢字や主語・述語の関係における理解を全学年で重点的かつ継続的に取り組んだ。その結果、本年度のさいたま市学習状況調査では、本校平均正答率と市平均正答率との差を、4学年中3学年、昨年度よりも縮めることができた。また、全国学力・学習状況調査の結果から、国語で「漢字」に課題がみられたが、さいたま市学習状況調査において漢字と同領域「言葉の特徴や使い方に関する事項」の異集団比較及び同集団比較において、共に昨年度から全学年が、数値を上昇させることができた。
思考・判断・表現	A	各教科で、資料をもとに自分の考えをまとめたり、自身の考えを図や式、言葉等で表現したりする活動を充実させていくことができた。また、学校課題研修とも関連させながら、協働的な学びを随時行い、自分の考えをペアやグループ、また全体で表現することができるような授業を、全校で日々展開することができた。さいたま市学習状況調査での生活習慣における調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目においては、肯定的な回答の割合が87.05%と、目標にしていた85%以上を達成することができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、漢字を文の中で正しく使うということに課題が残った。そして、無解答率が全ての問題の中で一番高かった。算数では、数量の関係を表したり、速さなどの単位量当たりの大きさの意味や表し方についての理解に課題がある児童がみられた。習得した知識・技能の活用や、深い理解を伴う知識の習得ができていないことが考えられる。
思考・判断・表現	国語の「読むこと」領域において課題がみられた。物語を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書くという問題で、無解答率が高かった。また、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して、自分の考えを伝えるための書き表し方を工夫するということにも課題がみられた。算数でも、道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて説明することに課題がみられた。要約、説明、論述等、自分の考えをまとめることができるような活動を多く取り入れていく必要がある。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	昨年度課題がみられた国語の「主語・述語の関係を理解する問題」では、類似問題の経年での比較より平均正答率の上昇がみられた。一方、算数の「数と計算」領域においては、課題が大きくなった。特に、整数の乗法・除法の計算及び分数や小数の減法・乗法・除法やこれらの混合した計算の正答率が低く、基礎的な計算力を確実に児童が身に付けられるよう細やかに指導したり、取組内容を丁寧に想起する場面を設定したりしていく必要がある。引き続き、「ドリルパーク」等を活用し、朝学習となる週一度の「基礎・基本」の時間で、主語・述語の関係における理解を全学年で深めていきたい。また、における同集団の経年での大きな課題が見られた。
思考・判断・表現	互いの考えを聞き、共通点や相違点に着目して考えをまとめたり、効果的に助言をしったりする力をみる問題では、同領域の異集団比較より、正答率の上昇がみられた。令和5年度より「自分の考えをもち、生き生きと学び合う児童の育成」を研究主題に学校課題研修を進めてきた成果が出てきたと考えられる。引き続き全校で、ICTも有効に活用しながら、指導の工夫・改善に取り組んでいきたい。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	「ドリルパーク」等を活用し、朝学習となる週一度の「基礎・基本」の時間で、主語・述語の関係における理解を全学年で重点的かつ継続的に取り組むことができた。	全国学力・学習状況調査の結果から、国語で課題のみられた「漢字」、算数で課題のみられた「速さや図形」における理解にも重点を置き、「ドリルパーク」等のICTを活用し、個別最適な問題練習が繰り返してできるようにする。【月に2回程度の実施】
思考・判断・表現	B	友達と考えを共有したり比較したりしながら、自分の考えをまとめたり、自身の考えを図や式、言葉等で表現したりする活動を大切にしながら日々の授業を実践していくことができた。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)